

北ハヶ岳 東天狗岳

坂村

【日時】 2009年11月28(土)～29日(日)

【メンバー】L木下 坂井 坂村

縦走が終わり、林道に出た。ふかふかの枯れ葉のじゅうたんに腰を下ろして休憩を取る。標高2000m以上は雪が積もっていて、風の音を除いて全ての音は雪に消されたが、こちら辺りではあちらこちらで乾いた音が空中でぶつかりあっている。雪の余韻と苔蒸した森の余韻は私たちを無口にさせていた。遠くの方で犬が吠えている。口を開いたのは坂井さんだった。「来たんじゃないっすか？ 犬ぞり」 えええ～！？ 犬ぞり？？ どういう意味ですかあ～！？

11月28(土) くもり時々晴れ

朝は思ったほど寒くなかった。稲子登山口には車が3台ほど停まっていた。この季節、登山口は静かだ。荷分けを終え7:50に出発。暫く歩くと登山道脇に雪のかけらが見え始め、登山道が凍結し始めた。しばらくは氷と土のMIXだったのでアイゼンを付けず頑張ったが、なにしろ滑って恐いので恐る恐る歩く。しらびそ小屋付近で雪が急に増え、足裏に当たる感触が柔らかくなった。小屋は冬支度の真っ最中だった。ミドリ池の向こうに稲子岳の雄姿がそびえていた。ここから黒百合ヒュッテまでの2時間はある程度の傾斜もあり、重い荷物が背中に食い込んだ。黒百合ヒュッテキャンプ場には既に多くのテントが張られていた。一人¥1000の幕営代は高いと感じたが、テントの下に敷く木の台が用意されており、快適に寝ることができそうだった。幕営の用意をし、今日これからどうするか話し合った。雲が多く、展望が望めるか分からなかったが、天狗岳にピストンで行くことにした。12:00出発。ここから先はアイゼンを付けることにした。私にとっては初めての12本爪のアイゼン。木下さんから爪が引っ掛からないよう少しガニ股で歩くよう指導があった。アイゼンでの歩行は爪先で地面を蹴ることができないので歩きにくく、非常に疲れた。しかも岩がむき出しになっている所では何度か爪を引っ掛けてしまい、ヒヤッとさせられた。東天狗岳山頂は雲の中で、風によってときどき景色が見えそうになったが展望はなかった。さほど長居をする理由もなく、キャンプ場に戻り、宴会をすることにした。



11月29 (日) 晴れ

夜は月明りが雪面を照らし、とても美しく、幻想的だった。朝になってもすっきりとした空は続いていた。7:45に出発し、30分歩いて中山に着いた。天狗岳がくっきりと見え、昨日のうちに登ったことを少々後悔した。ここから白駒池を経由するルートとニューを経由するルートのどちらを行こうか相談したが、展望を期待してニューに向かって歩くことにした。ニューは風が強めに吹いていたが、雲海と、その向こうに浮かぶ富士



山が迎えてくれた。下山途中、「ニューって不思議なネーミングですね」なんて言いながら歩いていたら、案内板に「乳」と書いてあった。ふーん。どこかから見るとそんな形をしているのだろうかと思う。登山道両脇の花の美しさを想像しながらしゃくなげ尾根を下り、苔蒸した世界を堪能し、標高2160m付近でアイゼンを外す。11:30には稲子登山口に到着した。

【行程】

11/28 稲子登山口 (7:50) ～しらびそ小屋 (9:20) ～黒百合ヒュッテキャンプ場 (11:15-12:00) ～東天狗岳 (13:15) ～黒百合ヒュッテキャンプ場 (14:15)

11/29 黒百合ヒュッテキャンプ場 (7:45) ～中山 (8:15) ～ニュー (9:15) ～稲子登山口 (11:30)

【地図】 松原湖、蓼科